

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0292600046		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホームおおま荘		
所在地	青森県下北郡大間町大字大間字大間平38-519		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年10月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設4年目となる。職員一同、理念である「住み慣れた地域で、その人らしく」を利用者様一人ひとりについて考え、日々の生活の中で活かすことに努めている。新型コロナウイルスの影響により、今までの普通が難しい今日状況の中で、心の負担を少しでも少なくし、日々過ごすことができるように工夫している。健康面に関しても、不安なく過ごしていただけるよう努めている。家族、地域の皆様との交流に関しても引き続き、連絡や報告等で繋がりをたやすことなく継続していきたいと考えている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「心の安らぎを目標に、その人らしい生活が送れるよう地域の方々とのつながりを大切に、居心地の良さを提供します。」というホーム独自の理念が作成され、地域の福祉課題にも積極的に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの個性を大切にするケアに日々心掛けており、普段から職員のコミュニケーションが良くとれていることから、利用者も落ち着き、一人ひとりが思い思いに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある言葉ひとつひとつの持つ意味を考え、意識して行動するように努めている。	ホーム設立当初、職員全員からアンケートをとり、「心の安らぎを目標に、その人らしい生活が送れるよう地域の方々のつながりを大切に、居心地の良さを提供します。」という独自の理念を掲げ、全職員で共有し、サービス向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでの馴染みの店等から協力いただき、交流を継続している。	ホームの周りには民家が少なく、近隣住民との交流する機会は余りないが、普段は敷地内の特別養護老人ホームの利用者と交流している。また、地元で活動している老人クラブの方々が訪問してくれる等、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた機会の中ではあるが、できる限りの協力を努めることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでのような会議の形が難しいため、報告等は文書で行っている。電話等での対応は常時受け入れている。	コロナ禍の影響により、現在は推進会議を中止としている。通常は2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの取り組みや利用者の状況等について報告を行い、委員から意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が主体となり、相談や情報交換を随時行い、協力関係の構築に努めている。	推進会議には、役場の高齢福祉課職員が参画しており、運営上のアドバイスをいただいている。また、普段からわからないことや困ったことがあれば、気軽に電話や相談できる体制になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意思、行動を抑制しないように、一人ひとりの状態を観察し、把握して尊重したケアに努めている。	管理者及び職員は、身体拘束の内容やその弊害についてよく理解しており、身体拘束を行わない姿勢でケアを行うようマニュアルを整備し、職員会議等で徹底している。また、外出傾向の利用者には、職員が付き添う等の支援を行っているほか、無断外出時には近隣のガソリンスタンドやたばこ屋等の支援や協力が得られる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員の認識の確認や実際の対応についてお互いに確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修以外にも制度等を学ぶ機会を作り、理解や活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が契約に関する全般を行い、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、会話しながら意見等を聞きだして運営に反映している。また、ご家族とのやり取りの中で、意見を求めることを意識している。自由に意見をいただけるようにご意見箱を設置している。	職員は、日々のケアを通じて利用者の表情や言動から、不満や意見を感じ取るよう心掛けている。また、玄関には意見箱を設置しているほか、家族が面会等に来たときには利用者の近況報告をすると同時に、家族からホームに対する意見や苦情を引き出すように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議とユニット会議で、意見を出す機会を設けている。ユニット内では、リアルタイムに意見交換し、実践に活かせるよう努めている。	毎月行われる「法人の福祉部会」や「全体会議」、「ユニット会議」により、職員の意見を聞く機会を設けており、会議等で出された意見等については運営に反映されるようになっていく。また、職員の勤務体制や異動についても、利用者に影響がないように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度の人事考課を行って行く中で、個々の意見や思いを聞くこととし、できる限りの対応や整備に取り組んでいる。また、日頃より疑問には説明し、理解を求めて職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な技術や対応等をその都度観察し、一人ひとりに合わせたアドバイスや指導に努めている。研修等への参加検討もすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組を進めている	同じグループでの勉強会や行事への参加をすすめているが、もっと機会を増やしていくことに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメント等の確認や把握に努め、入居後の利用者を観察し、常に職員間での情報交換を行い、信頼関係の築きに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や来荘時等、聞き取りの時間を設け、信頼と協力関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が自宅訪問し、利用者と家族が必要としていることを聞き取り、アセスメントを作成している。必要としている支援ができるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを意識している。一緒に行えることを探り、実践に繋げている。利用者の意思の尊重や自立支援を考えて実践に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を尊重し、共に協力し合う関係となるようにしている。電話での近況報告や行事への参加等で関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため、面会が難しい状況だが、電話で自由に交流できるように支援している。また、現在はテレビ電話設置に向けて準備中である。できる限り馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。	入居時のアセスメントで家族や関係者などから個々の思いや希望・意向を把握するとともに、入居後は利用者に寄り添い、ゆっくりと接しながら思いの把握に努めている他、家族との面会時や電話連絡により、情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士の関係性を観察し、上手く関わりながら生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に転居となった利用者に対しても声掛けをしたり、訪問や電話相談に応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット管理者とケース担当職員が中心となり、利用者の言動等から思いや希望等を把握し、職員間で情報共有している。	職員は、利用者の思いや希望、意向等を把握できるように、利用者に寄り添ってゆっくりと接しながら思いを把握している。また、利用者の意向が十分把握できない場合は、日々の顔の表情や行動を通じて把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴等の把握に努め、安心して生活できるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り、連絡ノート活用等で心身状態を把握し、速やかな対応と自立支援をしている。変化に気付いて見直しができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者が毎月所見を記入している。また、利用者と家族の意見や生活状況を確認し、計画の作成に繋げている。変化があったときは、速やかに検討し、見直しを行っている。	介護計画は、利用者の日々のケアのかかわりの中から、可能な限り思いや意見を取り入れている。また、必要に応じて家族や関係者の意見や気づきも反映したものとなっている。利用者の状況等に変化があった場合は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や状況等をケース記録に記しているが、不十分なことが多い。統一されていないこともある。全職員が明確な記録ができるように、工夫の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実践の中で感じたり考えたりしたことを伝え合い、取り組みに繋げられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のケアマネジャーや包括支援センターの職員、老人クラブ等と連携を図っている。地域との協力継続のため、連絡やお知らせ等で関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療機関と連携体制をとって対応している。	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、受診内容や受診結果についても家族や医療機関との共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を把握している。介護職員からの気づきに対し、意見や指示をもらう体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し、提出している。必要があれば、ホームに連絡してもらうように伝えている。退院後の取り組みについては、話し合って意見をいただき、ケアに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、医師や家族と一緒に話し合いの場を設けている。本人と家族の希望や要望を聞き、ホームでできること、できないことを理解してもらっている。協力をお願いする内容は記録し、情報伝達を行っている。	「利用者の終末期介護に関する指針」が作成され、重度化や終末期の対応についてホームとしての方針を明確にしている。また、利用契約時から利用者や家族、医療機関等と話し合いが行われ、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時より年1回は救急救命講習会を行っている。急変時に対応できるように、随時の対応を必要に応じて確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を実施している。	夜間を想定した避難訓練を年2回実施しており、そのうち1回は消防署との連携により実施されている。また、災害時に備え食料や飲料水等の物品を十分に備え、消費期限の管理も適切に行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対してのプライバシーや尊厳について十分考え、礼儀を忘れず、言葉掛けに注意している。	職員は、利用者の話をよく聞き、個人のペースに合わせ、言動を否定したり拒否せず、常に受け入れる姿勢で支援している。また、排泄介助や入浴介助は特に羞恥心に配慮するとともに、利用者のプライバシーや守秘義務、個人情報の取り扱いについて十分配慮して業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向や言葉に耳を傾けて、表情と仕草等から思いを感じ取り、自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合優先にならないように、できる限り希望に沿った支援を心掛けている。できない場合ははっきりと伝えて、理解を求め、次の支援に繋げている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院と理容院の利用に対応している。また、理容院に訪問していただき、散髪の協力をいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好の把握に努めている。一人ひとりの状況に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、皮むき等を行っていただいている。	献立は利用者の好みに十分配慮しつつ、栄養バランスを考えたものとなっている。また、一人ひとりの意向や状況に応じて、テーブルや茶碗拭き等、可能な限り職員と一緒に作業を行うようにしている。また、食事中は職員が利用者に優しく話しかけながらサポートを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量のチェックを行い、確認しながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モアブラシを使用して口腔内の清潔保持に努めている。毎食後の口腔ケアの促し、介助等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、把握している。一人ひとりの排泄パターンに合わせて対応している。パットやおムツは、必要に応じて検討し、対応している。	利用者全員の排泄パターンをチェック表に記録し把握しており、一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。できる限りおむつを使用しないように工夫を行っている。また、排泄時の誘導や声掛け、失禁時には、利用者のプライバシーに十分配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で体を動かすように心掛けている。一人ひとりの状態に合わせた乳製品や水分を提供したり、排泄チェック表で排便状況確認して下剤服用等で排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴希望はできるだけ対応している。拒否がある利用者には、対応を工夫して無理なく入浴できるようにしている。	入浴は通常週2回となっているが、希望があれば毎日入浴可能となっている。利用者の入浴習慣や好みを把握している。また、利用者が入浴拒否した場合は、無理強いせずに支援方法を工夫しながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を工夫し、夜間に良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付や名前等を二人体制で確認し、飲み込むまで確認している。薬の効果等を把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態等を確認し、作業等お願いしている。必要とされることを感じていただき、生活に張り合いがでるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況を考慮し、少しの時間でも気分転換になるように対応している。	現在は、コロナ禍の影響で希望通りに外出できる環境にないが、普段は一人ひとりの利用者がどのような場所に出かけたいのか、日頃のかかわりの中で全職員の連携により把握しており、利用者の健康状態や気分を見計らって外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理している。利用者が金銭所持の希望があるときは、家族と相談し、少額持っただけでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙と電話を自由にできる。携帯電話の所持も家族了解のもと行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をして、季節感を味わっていただいている。また、利用者が制作した者を飾り、楽しめるように配慮している。	共用空間であるホールは広く明るい環境となっており、ゆったりと寛げる家庭的な雰囲気となっている。利用者や職員の声、テレビの音も適切に管理されている。また、室内の明るさや温度、湿度についても適切に管理されている。ホーム内には季節を感じさせる装飾品も飾られており、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルをホールに設置し、利用者が集まれるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物や好みの物を持ち込むように呼び掛けている。家族の写真やカレンダー等を貼り、穏やかに過ごせるようにしている。	居室はできるだけ本人らしい居室になるように、入居前から使用していた物や馴染みの物を持ち込んでいただいている。持ち込みが少ない利用者には、利用者と家族の意向を確認し、職員と一緒に居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた居室の配置に取り組んでいる。場所等の混乱がないように、印を付ける等の配慮を行っている。		